

## 第4回 「クールチョイス」とは何か？その課題とは・・・

2016 年 7 月 25 日

長野県地球温暖化防止活動推進員・気象予報士)宮澤

温室効果ガス削減に向けた新たな国民運動「クールチョイス」が展開されています。  
背景は、昨年の COP21 (パリ)に先立って表明されたエネルギーミックスと削減目標です。  
内容につきましては、パンフレット「クールチョイス！節エネガイド 2016」を参照ください。  
要点と問題提起のみ、本レジュメに記載します。

### 1. 地球温暖化の最新情報

※)クールチョイスの運動の背景となるものです。

- ・IPCC の最新報告書 AR5 や、気象庁の気候変動レポートからの紹介
- ・各国の削減目標(2030 年): 昨年の COP21 (パリ)に先立って提出されたものですが、内容は大問題です。  
中国・インドは原単位の目標(GDP あたり)のため、実態は、大幅に増え続けます。  
先進国も、基準年を自国の都合の良いように決めて、「良いとこ取り」をしているだけ。

- ・日本の目標(26%削減)の達成方法:部門別内訳

これも大きな問題があります。一番大きい「産業部門」はもっと減らせる。自然エネルギーの普及による電力換算係数の低下で、「自動的に」減る部分だけでもかなり大きいはず。

2030 年に議論だが、私たちの行動としては、もっと先を見ていくことが重要。2050 年に半減、2100 年には、ゼロかマイナスまで持っていくことになる。⇒もっと根本的な技術革新や意識改革が必要となる。

### 2. 家庭では、どこから CO2 が出ているの？

- ・いろいろなデータが公開されていますが、大きな差があります。
- ・地域毎にみても、違いが大きい。
- ・長野県は、中部地方だったり、関東甲信だったりしますが、どちらも実態に合いません。  
長野県で大きいのは、

- ・自家用車、
- ・暖房、
- ・給湯、
- ・凍結防止ヒーター

- ・自分の家庭のデータをこつこつと取っていくのが確実です。(環境家計簿等)

### 3. はじめよう！COOL CHOICE (※パンフレット参照)

#### 4. 低炭素製品への買換え

- ・住宅:

断熱に尽きると言える。リフォームで元が取れるのは窓。

(熱の出入りは、冬は 50%、夏は 70%が窓からである。)

床・壁・屋根は、新築や大規模なリフォームの計画があるとき、積極的に考慮。

- ・照明:

電球型 LED は、普及期に入っていますが、

電球型以外は、標準化が進まず、手を出しにくいのが実態。

また、球(LED 素子)よりも、照明器具(制御回路)の寿命の方が問題となる可能性が高く、その場合、有資格者による工事が必要となる。

- ・家電:

エネルギー多消費型や、技術革新の著しいものは、寿命前の買換えでも元が取れるものもある。

エアコン、冷蔵庫、ブラウン管テレビ、洗濯機、電気ポットなど・・・

### 5. 低炭素サービスの選択

### ・(1)交通機関(※パンフレット参照)

公共交通利用はもったもなしだが、地方の実態から、将来をどう見るかということ。

公共と言いながら、民間まかせとなっており、採算の論理で切り捨てられてきた。

松本地域の路線バスは、ほとんど見放された状況。

松本の規模くらいの地方都市が、公共交通によってよみがえった事例がヨーロッパには多くある。

日本では、成功事例までっていない。

### (2)電気(※パンフレット参照)

くわしく触れられていないが、自由化は重要なカギ。

同時同量を押し付けるやり方を変革しないと、自然エネルギー事業者の参入がむずかしい。

### (3)商品の選択(※パンフレット参照)

環境配慮型商品の選択は、容易に消費者のパワーを示すことができ、有効です。

地産地消・国産の選択等。

## 6. 低炭素なライフスタイル転換

### (1)ライフスタイル転換(※パンフレット参照)

お金が掛からない対策。アイデアが重要。

・お金を掛けずに省エネするアイデアや工夫はいろいろとあります。簡単で効果が大きいものもありますし、努力の割に効果の小さいものもあります。自分の生活環境やライフスタイルと照らし合わせて、自分に合った選択をしましょう。

### (2)エコドライブ(※パンフレット参照)

簡単で効果は大きい。

PHV、EV車の方が本命。

### (3)もっと賢く、もっと楽しい選択(※パンフレット参照)

・クールシェア、ウォームシェア

### <不足している重要な視点>

・**エネルギーの選択**：電力の自由化には簡単に触れていますが、電気以外のエネルギーや創エネも含めたエネルギー選択の問題を取り上げていない。

※)エネルギー選択問題を避けている？のは、これが、**原発 VS 自然エネルギー VS 化石燃料** という問題につながる。本来は、もっと議論すべきところだが、エネルギーミックスは、今年の計画を正として、触れるのを避けていると考えられます。

・定性的で総花的。効果の大きいもの、投資効率の高いものがはっきりしない。

・**2030年はゴールではなく、2100年にゼロあるいはマイナスを目指す道筋の通過点に過ぎない。**

・この運動は、見えている施策の積上げ的内容が多い。

⇒「**ゼロ**」を意識したら、**もっと違う姿が描ける**のではないか。

具体的には、**自然エネルギー(再生可能エネルギー)**ということになります。自然エネルギーの基になるのは、太陽の恵みや、地球が46億年前から、内部に保有しているエネルギーであり、人類は使いたいエネルギーの量に比べたら、無限大と考えて良いものです。

それらが、いろいろな姿に変換されて、私たちのまわりに存在しているのに、人類の技術がまだ未熟であるために、使いこなせていないと考えるべきです。

・**太陽エネルギー**：太陽光発電、太陽熱発電、太陽熱利用、バイオマス(発電、熱利用)、風力発電、水力発電、海流、海洋温度差発電

・**地球のエネルギー**：地熱発電、温泉熱(発電、熱利用)、地中熱利用

・**月の引力**：潮汐発電

⇒未来を見据えてデザインするのは、私たち！！